

MCPAナトリウム塩液剤 MCP ソーダ塩	取扱メーカー： 石原、日産、ホクサン 原体メーカー： 石原産業・日産
成分： MCPAナトリウム塩〔フェノキシ酸系〕……………19.5%	性状： 茶褐色水溶性液体 毒性： 普通物 消防法： —

【品目特性】……………

- ホルモン型、吸収移行型の選択性除草剤で、水稻や麦類、日本芝などの広葉雑草処理剤。
- 2、4-Dに比べやや低温条件（約20℃）でも効果を発揮し、稲に対する影響も少ない。
- 有効成分の特性は参考資料の「有効成分特性一覧表」を参照。

【使用上のポイント】……………

〈水稻〉

- 有効分げつ終止期～幼穂形成期前（北海道は幼穂形成始期）が使用時期なので、初期又は中期剤との組み合わせによる体系防除を行うか、中耕除草を行う。
- マツパイ、ヘラオモダカ、ウリカワ、オモダカ、セリは完全に枯殺することができないので、有効な除草剤と組み合わせて防除する。マツパイは稲刈取後処理で効果的に防除できる。
- 散布1～2日前に落水し、雑草を十分に露出させて散布する。
- 散布2～3日間は落水のままにして湛水しない。
- 直播栽培の場合も有効分げつ終止期から幼穂形成始期直前までに移植栽培と同様の方法で散布する。

〈水稻刈取跡〉

- 刈取後できるだけ早く、雑草の生育が旺盛な時に散布する。

〈麦類〉

- 少水量散布（25～50ℓ/10a）には専用ノズルを使用する。

〈日本芝〉

- 萌芽期及び生育初期の芝は抵抗力が余り強くないので、完全に生え揃った後に散布する。
- 高温になるほど殺草力は強くなるので、7月頃では散布前に芝刈りを行って、雑草の生育をおさえた後散布するとさらに有効。

〈公園、堤とう等〉

- セイタカアワダチソウ、イタドリ等大型多年生広葉雑草は防除対象としない。

【薬効・薬害等の注意】……………

- 立毛中の広葉作物に飛散しないよう注意する。
- 降雨前の散布はさけ、なるべく好天の日中を選んで散布する。
- できるだけ株間に均一に散布し、稲体の上から散布しない。
- 適用作物（水稻、とうもろこし）の薬害などの注意は「薬害注意事項解説」を参照。
- 適用外作物（広葉作物、草花、水蓮など）への薬害などの注意は「薬害注意事項解説」を参照。

【安全対策上の注意】……………



【適用と使用法】

作物名	適用場所	適用雑草名	使用時期	適用土壌	10a当り使用量		使用方法	適用地帯	本剤及びMCPAを含む農業の総使用回数
					薬量	希釈水量			
水 稲	—	水田一年生雑草（イネ科を除く） マツバイ ヘラオモダカ ウリカワ オモダカ セリ	有効分げつ 終止期～ 幼穂形成期前 但し、収穫 60日前まで	全土壌	200～ 240 g	70～ 100 ℓ	落水 散布	南関東以西 （山陰を除く） 南東北、北 関東、東山、 北陸、山陰 北東北	1 回
			幼穂形成始期 但し、収穫 60日前まで		160～ 200 g				
					160 g				
					125 g				
水 稲 （刈 取 跡）	水稲 刈取跡	マツバイ	稲刈取後 10日以内		1000 g	90～ 110 ℓ	関東中南部 以西の早期 又は早植水 稲刈取跡 （単作地帯）		
水田作物 （水田畦畔）	水田畦畔	一年生及び 多年生広葉 雑草 スギナ	雑草生育期 （草丈30 cm以下） 但し、収穫 14日前まで	全土壌	200～ 400 g	100 ℓ	雑草茎 葉散布	全域	3 回 以内
とうもろこし	—	一年生及び 多年生広葉 雑草	2 ～ 5 葉期			70～ 100 ℓ		北海道 東北、北陸	1 回
麦 類			〔春播麦類〕 5 葉期 但し、収穫 45日前まで		200～ 300 g	25～ 100 ℓ	全域		
			〔秋播麦類〕 幼穂形成期 但し、収穫 45日前まで			70～ 100 ℓ	北海道 全域 （北海道を 除く）		
			芝生育期		2 g/m ²	200～ 300ml /m ²			
西 洋 芝 （ケンタッキー ブルーグラス）					春夏期芝生育期 （雑草生育期）	1.5～2 g/m ²			
樹 木 等	公園、堤とう、 駐車場、道路、 運動場、宅地、 のり面、鉄道等	一年生及び 多年生広葉 雑草 スギナ	雑草生育期 （草丈30 cm以下）		400～ 600 g	70～ 100 ℓ	植栽地を 除く樹木等 の周辺地に 雑草茎葉 散布	全域	3 回 以内